

者、長久保赤水（一七一七～一八〇一年）の関連資料計693点が高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（一七一七～一八〇一年）の関連資料計693点が国の中でも重要文化財に指定されるようになった。指定されるのは日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させた赤水の資料群で、国の文化審議会が文科相に指定するよう答申。更にまでに答申通り指定される見通しだ。県民にとって新たな誇りとなる。

長久保赤水顕彰会が長年にわたって埋もれていた資料の収集・整理や赤水の功績を伝える活動を統理、その活動を市も支援。市職員が、その活動を市も支援。市職員が、時代から顕彰会の活動を主導し重文指定という悲願を達成した佐

論 説

赤水資料の重文指定

複数の子孫宅に奉納してきた一括資料で、地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点の計693点。赤水の学問の内容や交友関係、生涯の実績を考える上で最もまとめた資料群で、学術的な価値が高い。

赤水図は1:29万6千分の1の
駆者と言える。
てきる45年ほど前のことだ
。忠敏の地図は、いわゆる國家
密とされ、幕府の厳重な管理下
あつたため、庶民が目にするこ
はなかつた。赤水は地図作成の
比讀 官製の巨絵図など多くの
料を基に編集。自身の実体験や多
くの旅人 知人からの話も参考に
して20年以上の歳月をかけて完成
させた。初めて經緯線を用い、左
角が正確に分かり、天文学の知識
を取り入れたことも画期的とされて

顕彰会は2012年にJR高萩
に成る。多聞方識れ

る。
今回は「一橋徳川家関係資料」
(県、県立歴史館保管)も国の重
文指定となる見通しだ。赤水の功
績とともにあらためて本県の歴史
を学ぶ契機としたい。

川春久食会は「非常におりがたいことで、ようやく第一歩が踏み出せた」と喜びを語る。今後は教科書への掲載や大河ドラマ化を目指す。

亦水か天文学の知識を取り入れ
1779年に完成させた日本地
圖改訂日本輿地路程全圖(赤水
作成した大日本沿海輿地全圖)
)は戸戸時代の庶民の生活を
え、広く愛用された。伊能忠敬
緯度に、1里(約4.2km)が1度、(約
3度)。大きさでは縦84・6センチ、横
1280・8センチ。国境や関所、城下
町、名所など10種類の記号が使わ
れている。35歳ころから地図を学
び始めた赤水は先人による地図や
今

農家に生まれた赤水は農民の苦みも救つた。61歳ごろ、水戸藩代藩主徳川治保に学問を教える講に抜てきされた。極めて異例ここで、赤水は政治にも明るく、言えど政策アドバイザー的な

の陶板を建立。赤水の旧宅を活用して、市と調整しながら「赤水記念館」として改修する構想もある。観光など地域活性化にも生かしていきたい考え方で、佐川会長は「地図を勉強している学生がたくさん